

②② 新年摺

春ことにいろをふかめて千代ろつ

みとりいやます松そさかゆく

景福

君か代はなにうきふしもなよ竹の

千ひろの影そ豊なりける

剛長

出る日の光りとともにくもりなき

君か御代をは仰かる、哉

成教

恵方へとつるもふみ出す初日かな

笹たけもかゝる雲なし初日の出

飛上るほかに嬉しやはつ日の出

手遊びや踊るも見るも春こゝろ

しら梅のうしろたてありふく寿草

はつ日かけおしひろかりて御代の春

咲そめる梅にあさ日の昇りけり

おしなへてまつもろともや君か春

静なる夜の明ふりや御代の春

花にめて名は猶とみてふく寿草

はやくと不二にうけたる初日哉

たくひなき色を含むやふく寿草

遠眼にもまかりぬ梅のつはいかな

末広く松の旭の出やけさの春

名にし逢ときはの松やはつ日の出

あたらしき筆とりあけて吉書哉

わか水やくみこゝろよき鏡口

ひらく戸や野山もけさの春心

初日さすときはの松や新しき

ありかたき御代かさねけり鏡餅

雪野から霞ぞめけりけさの春

蓬萊や松のおくから鶏の声

春立や珍重ちんとなく雀

昇る旭に香のとはしるや梅の花

千代くとすゝめの声も君か春

民くさの殖るかまとや君か春

太箸のほんめてたきはしめ哉

鶯やいちにちたけの声のはり

万歳に聞はやつるとかめのとし

手をついて見とる、花や福寿草

晴たれは道の広さやはるの山

ときは木にさすもつたひや初日の出

初空や雲井はるかに鶴の声

相生の松のみとりやけさのはる

元日やものいふ声のあらたまる

君に猶松のよはいやかさき餅

戸明れは限なき空や初日の出

蓬萊に移る旭のちから哉

川添や光りさし来る今朝の春

世は竹のすかたになりて君か春

蓬萊に世の常ならぬ初日哉

初空や常には見へぬ不二の峰

限りなく海もたひらや初日かけ

元日や鶏の声にもくもりなき

つるかめも来てもふ春の御庭哉

祝ふのも猶万歳のはしめかな

てらくと四海にわたるはつ日哉

はつ空のみとりに清き流かな

初鶏にたゝしき明もまたれけり

眼たゝけは海をはなれて初日の出

初空や不二を真うけに旭の昇る

色ふくむ根に力ありふく寿草

松に旭の粧ひ深き子の日かな

春深く色添松やとこしなへ

はまゆみの矢さきに敵もなかりけり

蓬萊に積かさねてや俵のし

万歳は君のめてたさかそへけり

今開くけわいや千世の玉椿

文久式壬戌春

文久式壬戌春

清友

呂三

双蝶

久笠

三鳥

玉露

壽三

友月

月下

石曠

長水

其竹

千鶯

羽扇

雲香

龜遊

江栄

三思

蓬節

島雪

江柳

紅鳥

三喬

吳陵

篁廬

樵晦

乙雄

雄節

文裡

江仙

一橋